

豊中市 新・産業振興ビジョン中間見直し(案)に関する意見公募手続の結果について

令和8年(2026年)2月13日～3月5日に実施した意見公募手続の結果は下記のとおりです。

(1) 集計結果

①提出方法別提出人数と意見件数

	提出方法	提出人数(人)	意見件数(件)
1	郵便		
2	ファクシミリ		
3	電子メール		
4	電子申込システム	1人	1件
5	所管課への直接提出	1人	4件
6	その他		
	合計		

②市民等の区分別人数

	市民等	提出人数(人)	意見件数(件)
ア	市の区域内に住所を有する者	2人	5件
イ	市の区域内に事務所等を有する個人及び法人等		
ウ	市の区域内に存する事務所等に勤務する者		
エ	市の区域内に存する学校に在学する者		
オ	市税の納税義務者		
カ	意見公募手続に係る計画等に利害関係を有するもの		
	その他(市民等の区分が未記入のもの)		
	合計		

(2) 提出意見の概要と市の考え方

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
1	P4	<p>P4 にとよなか起業・チャレンジセンター事業に AI 戦略拠点構想(廃校を活用)―産学官連携による『AI 実装人材循環都市モデル』の構築―の追加を提案する。</p> <p>これは AI 施設整備ではなく、AI を実装できる人材育成と地域企業への循環を通じ、中小企業の人材不足や DX 遅れといった構造課題を解決し、“実装成果”重視の政策転換を目指すもので具体的な三本柱は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 月次の「Toyonaka AI Forum」を設置し、地域企業の AI 導入事例や行政課題を共有。 ② 中小企業向け標準 3 か月 AI 導入プログラムを定型化し、具体的な数値目標を設定。 ③ 12～70 歳対象の AI 人材育成と等級制度を導入し、実績に応じて「豊中 AI 実装パートナー」として企業へ循環させる。 <p>財源は公費依存せず、企業版ふるさと納税や自走収入を組み合わせた「公費投資型」とし、初年度約 3,300 万円規模で開始し段階的発展を目指す。</p> <p>本構想により、庄内エリアを「議論・実装・発信の街」として再定義し、南部再活性化を図る。「学ぶ→試す→成果を出す→地域へ還元する」循環を固定化することで、「AI で成果を出す」都市ブランドへの転換を目指す。</p>	<p>P4 については、これまで本市が取り組んできた産業施策の内容を記載しています。</p> <p>本計画における今後の施策展開につきましては、起業・チャレンジセンターに関する内容を P69 に、AI に関する内容を P67 にそれぞれ記載しています。</p> <p>いただいたご意見については、今後の AI 活用に向けて大変に重要なものと考えます。</p>
2	P18	<p>「2030 年度において温室効果ガスの平成 25 年度(2013 年度)からの 46%削減をめざすことを宣言しました。これが現在、国としての目標となっています。」とあるが、2040 年度までの目標が決まっているので、新しい数値に更新すべき。</p>	<p>ご指摘のとおり、修正いたします。</p>

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
3	P45 他	第3章 市内産業の現況調査において、円グラフに回答数(100%が何件であるのか)が示されていないものがあるが、示した方が良いのではないかと？	ご指摘のとおり、修正いたします。
4	P46 他	第3章 市内産業の現況調査において、横棒グラフ(複数回答)の構成比の数値は、回答総数を100%として図示しているが、回答者数を100%にすべきではないかと？	ご指摘のとおり、修正いたします。
5	P52	帯グラフは属性ごと(従業者規模別)の回答者数を示すべきではないかと？	ご指摘のとおり、修正いたします。